

## 「インド空手遠征記：香辛料の国、血が騒ぐインド」

極真会館 大石道場 杉本龍哉

### 平成 29 年 9 月 13 日

自分にとって二度目の空手海外遠征の日となりました。

今回は、大石範士、柴田師範、橘師範、北海道佐藤先生の計 5 名の遠征。

成田空港からタイ・バンコク空港まで 5 時間、バンコク空港からコルカタ空港まで 3 時間、計 8 時間の飛行機の旅。

4:30(現地時間 1:00)コルカタ空港着、オーストラリアのキャメロン師範と合流  
シバジ師範と道場生 20 名がお迎え

1:30 マリオットホテル到着。コルカタでは最高級ホテル  
佐藤先生と同室、7 日間よろしくお願ひします。押忍

2:00 就寝



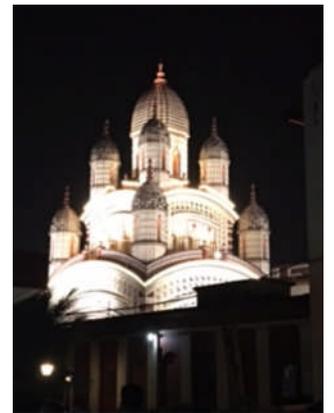
### 平成 29 年 9 月 14 日

9:00 朝食

本日はオフ日

12:00～、佐藤先生とホテル周辺を散策、とにかく暑い、1 時間ほどで汗ダラダラ

15:30～、大石範士は部屋で調整、以外の師範・先生方計 5 名で、寺院、ガンジス川などの市内観光に出発。ガンジス川ではフェリー(板船)に乗船し横断。船内のお客さんと馴染み、一緒に写真撮影。寺院では大勢の方々がお参りに来ており、信仰の深さを感じた。周りの観光客用の出店では、錆びた刀で魚をさばき、それを茶色い水でゆすいでいたが、食したら一発で落ちそうな感じ。



キャメロン師範とは初めて色々なお話をさせていただきましたが、その人格、懐の深さ、人間の温かみに満ち溢れた素晴らしい方と認識できました。観光案内、ありがとうございました。

インド道場生運転の車でホテルへ。20:30 着。お待ちの大石範士と夕食。

明日からの連日の稽古に備えて就寝。

佐藤先生は就寝中も息吹(いびき?)の稽古。さすがです。

## いきなりですが、インドの感想

- ・道路状況は凄い！の一言。車の列数は車線数の1.5倍(2車線→3台、3車線→5台)その間隙をバイク、歩行者、馬車、牛(インドでは神の使い)が往来、鳴りやまないクラクション、騒音、ホコリ。刺激になります。でも交通事故、言い争いにはならない運転技術の高さと人格の寛大さ。
- ・絶え間のない人波。インドの人口、約13億人で滞在地コルカタは最も人口密度が高い街。活気、熱気、パワーが凄い！
- ・食事は辛い！香辛料の無いメニューは少ない。これにはさすがの範士も閉口です。暑い気候に負けない体になるには香辛料を入れるしかない！という考えかも？
- ・見るもの、聞くもの、食するもの、全てが刺激的な国、「香辛料の国、インド」
- ・それでいて信仰深いところが不思議です。5千年ものヒンドゥー教の歴史がなすところ。



インドの交通状況

こんな感じでフリー走行です。

平成 29 年 9 月 15 日

8:30 朝食

夕方の稽古まで時間があるので、ホテルでインド通貨ルピーに両替し、佐藤先生と昨日とは違う箇所を散策。今日も暑い！！宿泊のホテル周辺は全くの生活圈なので、観光土産ではなく生活者の為の衣食を扱っている屋台ばかり。ここで食したら一発で胃にくると思います。1時間程度の散策、手ごたえ無しで終了。

13:00～ホテルでランチ。それほど空腹でないのでフルーツ程度。

部屋に戻りテレビで謎のインド映画を見ましたが、急に歌いだす、急に踊り出す。その感覚が日本とは全くの別物です。（私は多少理解できます。急に血が騒ぐ！）



標準的なインドの男性です。

急に歌い、踊ります。

17:30～初日の顔合わせ稽古。

日本から参加の範士、各師範、先生、他国(オーストラリア、ロシア、ジンバブエ)の師範方へのウエルカムの垂れ幕があり、びっくりです。参加道場生 150 名による歓迎レセプションのあと、大石範士の号令で準備体操から基本稽古。



20:00～稽古終了後、カーニバル中の街を通りながら、レストランへ。

インドの一般的な食事ではアルコールは飲まないようです。お酒があるのは、高級ホテル、レストランのみ。よって我が日本チームはコカ・コーラ。橘師範と私は勇気を出して「スパイシー・コーラ」に挑戦。これは常温の炭酸の抜けたコカ・コーラにコショウが入っているものでした。これは本当に凄いもの、これを飲んでいるインドの方々を崇拜します。私は半分のみでKO、さすがの橘師範は完遂。

23:00 ホテル着、シャワー後、就寝

## 平成 29 年 9 月 16 日

8:00 朝食

本日から本格的な稽古、午前 2 時間、午後 2 時間×3 日間。

10:00～稽古。

大石範士の号令で準備体操から基本稽古。

その後、大石範士：黒帯、自由師範：茶帯、橘師範、佐藤先生：緑帯、私杉本：白～黄帯の担当に分かれ、それぞれの技量に合せた稽古を行いました。

私担当の色帯軍団は、やはり日本、大石道場生の技量に比べると物足りないかと思いますが、やる気はあります！！それが大事です。やる気をそがないように指導するのみ。

12:30 昼休み時間を兼ね、いったんホテルへ

17:00～稽古。

大石範士の号令で準備体操から基本稽古。

その後、同様の担当に分かれ稽古。

夕方の部になって、仕事、学校が終わったのか、道場生は午前中より人数が増えてました。

私の担当は 40 名程度。

私の片言の英語が通じてくれる道場生もいれば、全く？の道場生もいます。近くに寄って、「ユー、アンダスタンド？(わかりましたか?)」と聞いても、首を横にかしげるだけ。物わがりの悪い奴だな、と思いきや、インドでは首を横にかしげるのは「わかりました。」という意味でした。日本は縦、インドは横。うーーん、難しいです。

21:00～稽古終了後、ホテルのレストランでシバジ師範と師範の息子さん 2 名を含め食事。

範士、師範方はインドの極真空手普及運営について真剣に話をしておりました。人口 13 億人をまとめるのは大変なことです。

23:00 シャワー後、就寝

平成 29 年 9 月 17 日

8:00 朝食

本日から、ロシアのダヴィット師範が合流

11:00～稽古。

大石範士の号令で準備体操から基本稽古。

その後、昨日同様の担当に分かれ稽古。

昨日より、体の動かし方は良好かな、と手ごたえ。

13:00～14:00 昼休み時間はそれほどないので、本日は会場で一休み。

14:00～稽古。

午後は自由師範の号令で準備体操から基本稽古。

その後、同様の担当に分かれ稽古。

担当色帯軍団は、やっと太極の型に入りました。それでも、やる気はありますから大丈夫。

息吹、深呼吸も何回も指導、少しずつ様になってます。腹にも力が入ってきました。

息吹をやりながら力のありそうな道場生に私の腹を叩かせてみると、目を丸くしてびっくりしていましたが、日本では当たり前の事。後日の審査会で私も組手の相手をさせていただきましたが、全体的に腹が弱い。叩いて鍛えてない感じでした。この稽古で覚えてくれれば。

16:00～5 回目の稽古終了

街はカーニバルの最中、人人人、人波の嵐、よくこんなに人がいるなという感じ。

クラクション、人波、馬車、人があふれかえるバス、の中を歩いてホテルへ

19:30～ホテルのレストランで食事。

大石範士曰く「辛いものばかりで、私はもう食べるものがない。」そこで用意周到な佐藤先生が「丸ちゃんソーセージならあります。」大石範士、ニコリ。手に入れてホットしました。やはり日本人には「MADE IN JAPAN」が最適！

21:00 本日は浴槽につかり、就寝。少しずつ寝る時間が早くなってきます。疲れの蓄積。

残り湯で、佐藤先生と道着の洗濯、一夜漬け



平成 29 年 9 月 18 日

8:00 朝食

本日から、ジンバブエのサムソン先生が明日の五段審査のため合流(サムソン先生は審査会を受けるためだけに、前日に入国、受審後帰国されました。強い！！の一言)

11:30～稽古。

大石範士の号令で準備体操から基本稽古。

その後、毎回同様の担当に分かれ稽古。

昨日までの復習。稽古は反復が大事、身に付けたと思って、そこでやめたらダメ。それを理解してほしいです。

13:00～14:30 本日も昼休み時間はそれほどないので、会場で一休み。

14:30～稽古。

午後はインド指導員の号令で班ごとの稽古。

私たちは補助的に動き回る。

インド指導員の黒帯はさすがに言葉が通じるので、生徒も動きやすそうでした。言葉が通じない場合動作で示せば、と思ってましたが、それもなかなか難しいです。それを考えますと、世界中に極真空手を広めました大山総裁の力は凄い！！と感じざるを得ません。

16:00～7 回目の稽古終了、ホテルへ

※7 回目の稽古が終了した後、ずっと一緒に稽古した黄帯の一般男性(40 歳)が私に握手を求めて来て「My teacher(私の先生)」と言ってくれました。涙腺がやばかったです。

19:30～シャワー後、シバジ師範が用意していただいたレストランへ移動

ダヴィット師範、サムソン先生も一緒。特にダヴィット師範は明るく大らかな方で、こちらまでつられてしまいました。

22:00 シャワー後、こっそりと佐藤先生とホテルのバーへ。早いもので最後の夜です。



平成 29 年 9 月 19 日

8:00 朝食

10:00～ホテル出発、審査会へ

12:00～審査会開始

黒帯受審者 10 名

基本稽古～補強(拳立 50、腹筋 50、スクワット 50)×5 セット～型～連続組手

補強審査では 1 セット目で寝転んでしまう者もいましたが、最後は大盛り上がりで全員完遂？これを見てますと極真らしくていいな、と納得です。

組手審査では対戦者が少なく(だんだん人がいなくなる?)私も相手をさせていただきました。

五段審査のサムソン先生の場合は、その型を見ただけで回りがビビってしまっていました。もちろん組手の強さは型同様、対戦した色帯の若手のほとんどが 1 本負け。それでも数人は倒されても倒されても向かっていく、その勇氣には拍手です。きっと強くなると思いました。

16:00 サムソン先生の 50 人目を佐藤先生が相手をされ、連続組手完遂！審査会終了！

これにてインドでの稽古も全予定を終了。数人の道場生と写真撮影しました。



私になじんできた  
通称名「もじゃお君」  
凄く、いいやつ

19:00 ホテルでシャワー後、休む間もなく、さよならパーティー会場へ

ここでの出来事は想像にお任せしますが(大石道場 HP 参照、どうしても血が騒ぐ!)、ノンアルコールの中、楽しく交流を深めることができました。私の役目は親善大使。



## 平成 29 年 9 月 20 日

20:30 パーティー終了後、ホテルで荷物を受け取りコルカタ空港へ

2:00 コルカタ空港発

16:00 タイ・バンコク空港経由、成田空港到着

21:00 寺本先輩運転の車で自宅到着

2年前のアルゼンチン遠征に続く2回目の海外遠征。それも刺激的な国、インド。

違う国であっても、同じ道着で同じ稽古、人種、宗教、カースト制度(ヒンドゥー教における身分制度)、その違いはあっても極真空手は一つだけ。

極真空手の最高峰、大石範士に同行させていただいたこの1週間は決して忘れることのない経験となりました。ありがとうございました。

範士が教えてくれました。

「日本では始めた空手が極真空手だった。しかし海外は極真空手だからこそ始めるんだ。現在はその違いがある。」

痛感いたします。

最後になりますが、同行していただきました柴田自由師範、橘師範、ずっと同部屋ですごしていただきました佐藤先生、ありがとうございました。

そして今回の海外遠征も大石道場あつてのものです。それを肝に命じ、極真空手の普及・発展に微力ですが力を注ぐ所存であります。

押忍